

快適職場の形成に関する調査研究

[研究メンバー]

森永卓郎	(株) 三和総合研究所研究開発部副主任研究員
鈴木由香里	(株) 三和総合研究所研究開発部研究員
宮脇亜矢	(株) 三和総合研究所研究開発部研究員
神山英紀	(株) 三和総合研究所研究開発部研究員

[報告書目次]

- I 調査の概要
- II 調査結果の概要
- III 工場部門の調査結果
- IV オフィス部門の調査結果

[内容要旨]

わが国の勤労者の所得水準が世界のトップクラスになる中で、生活時間のかなりの部分を占める職場生活の「質」について、関心が高まっている。こうした状況の中で本調査は、「快適職場」の形成を進めるにあたって、職場の現状、職場に対する意識、ニーズ、さらに今後の課題などを明らかにする目的で行われた。調査の実施にあたっては、調査対象を製造業の工場部門と一般産業（建設業、運輸・通信業、卸売・小売業、金融・保険業、サービス業）のオフィス部門の2部門とし、それぞれの企業と勤労者に郵送法によるアンケート調査を行った。調査結果の分析においては、企業と勤労者の意識の比較や工場部門とオフィス部門の比較を行ったほか、場合に応じて各調査の結果を規模別・職業別・男女別にみることにより多角的な分析を試みている。

1 工場の勤務者とオフィスの勤務者に各々職場の快適度について尋ねた結果、オフィス勤務者の68%が「まあまあ快適」「とても快適」としているのに対し、工場勤務者の約半数（47%）が「やや不快」「とても不快」としており、工場部門の快適化が遅れていることが調査から示された。工場勤務者では、特に技能工・生産工程作業で不快とする割合が高く、オフィス部門では、管理職に比べ非管理職の方が不快とする割合が高い。

2 工場及びオフィスのそれぞれについて「これまで」及び「今後」の職場の快適化への取り組み姿勢を尋ねた結果、工場部門では「まあまあ行っている」が56%、「積極的に行っている」が21%となっており8割近くの工場が快適化への努力をしている。オフィス部門では「まあまあ行っている」が45%、「積極的に行っている」が15%で努力している企業は6割にとどまった。

今後の職場の快適化に関して、オフィス部門に比べて工場部門の取り組み意欲が強いことがう

かがえる。ただし、工場部門の取り組みが積極的なのは、現状があまり「快適」でないことも影響していると考えられる

この結果を規模別にみると、「これまで」の取り組みに関しても「今後」の取り組みに関しても工場、オフィスを問わず、大規模ほど積極的であり小規模であるほど取り組みに遅れがみられる。

3 職場の快適化への取り組みをどのような効果を期待して行ったかという問いに対しては、「従業員の健康安全対策」を期待して職場の快適化を行ったと答えている。職場の快適化によってどのような効果を生じたかという問いに対する回答からは、職場の快適化の手法と効果については試行錯誤の状況にあることがうかがわれる。

4 工場及びオフィスの勤務者について、希望する職場環境改善の内容を尋ねたところ、工場勤務者では「温湿度の調節」が48%、オフィス勤務者では「間仕切・レイアウトの改善」が41%新となっている。

また男女別にみた場合、工場の場合には、「温湿度の調節」が男女とも一番多いが、男性はこの次に「騒音対策」、女性は「更衣室・ロッカーの改善」を挙げている。一方オフィスの場合には、男性の第1位が「間仕切・レイアウトの改善」であるが、女性は「更衣室・ロッカーの改善」を挙げており、男女間に希望内容の違いがみられる。